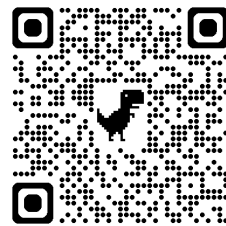


研究成果(令和7年度)を公表しました！

令和6年度（2024年度）の農業研究センターにおける研究成果のうち、生産現場に普及・定着を図る成果を「農業の新しい技術」として6課題、技術情報として農業技術指導者等に提供する成果を「農業研究成果情報」として39課題を農業研究センターホームページに掲載しました。農研NOWでも「農業の新しい技術」を随時ご紹介していきます。



研究成果掲載ページ



水稲「くまさんの輝き」における中干し期間の拡大がメタンガス発生量並びに収量・品質に及ぼす影響



高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数



夏秋ホウレンソウ「ジャスティス」の発芽と生育温度の閾値および遮光資材の利用法



カンキツ「熊本EC12」の無加温ハウス栽培は収量が多く果実は大玉で外観は良好となる



ゆきつるみつ
褐毛和種雄牛「幸弦光」の選抜



原種鶏における増体性遺伝子（CCKAR）の優良型への固定による肉用鶏天草大王の改良

☆成果発表会の予定☆

9/11 果樹関係研究成果発表会（場所：果樹研究所研修館）

目次

- P.2 R7公表 農業の新しい技術①
高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数
- P.3 R7公表 農業の新しい技術②
夏秋ホウレンソウ「ジャスティス」の発芽と生育温度の閾値および遮光資材の利用法
- P.4 ☆新しい仲間たち（研究職編）☆
全国果樹女性生産者熊本大会 果樹研究所視察の様子



高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数

研究のねらい

イチゴ「ゆうべに」の土耕栽培では頂花房の最適な着果数（草勢に合わせて約12果程度）を明らかにしていますが、高設栽培では不明でした。そこで、高設栽培における頂花房と第1次腋花房の花房間葉数に応じた最適な頂花房の着果数を明らかにしました。

研究の成果

1 頂花房と第1次腋花房の花房間葉数が4枚の時は着果数を9果、3枚の時は6果および9果、2枚の時は6果に着果数を制限することで可販果一果重が確保され、可販果収量が多くなります（図1）。

2 花房間葉数毎に最適な着果数に制限することで、糖度が高く維持され（図2）、ガク枯れ果の発生も低減します。

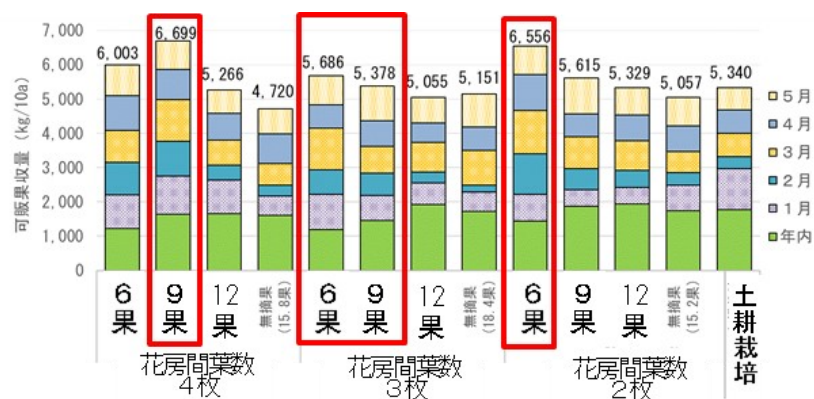


図1 花房間葉数と着果数の違いによる可販果収量

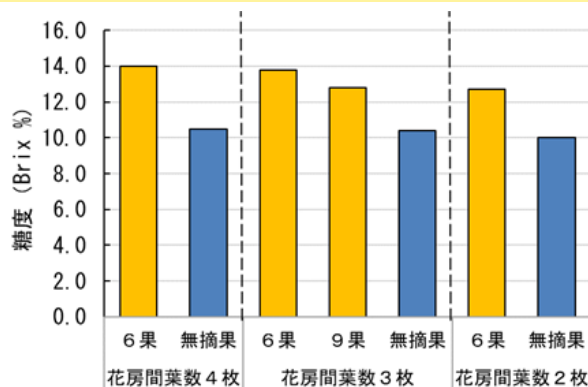
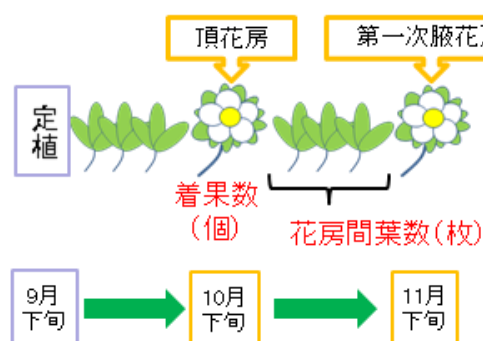


図2 花房間葉数と着果数の違いによる糖度（12月下旬調査）

頂花房とは？第1次脇花房とは？



適切な摘果を行うことで、草勢も維持されます

留意点

- (1) 今回の栽植様式は、(株)アグリス社製で平型2条タイプ（培土1年目）、ベッド幅130cm、株間25cm、2条千鳥植えとしています。
- (2) 頂花房と第1次腋花房の花房間葉数が1枚以内（1.5番果を含む）の第1次腋花房は全て除去してください。

夏秋ホウレンソウ「ジャスティス」の発芽と 生育温度の閾値および遮光資材の利用法

研究のねらい

近年は地球温暖化の影響で、阿蘇地域においても梅雨明け後から8月中旬の期間は発芽不良や生育抑制により栽培が困難となっています。そこで、盛夏期用ホウレンソウ品種「ジャスティス」の発芽とその後の生育に及ぼす温度と降温手段としての遮光資材の利用法を解明しました。

研究の成果

- 1 グロースチャンバ（人工気象器）を用いて、発芽とその後の生育に及ぼす温度を明らかにしました。
 - ①播種6日後の発芽率は、32℃以下で90%以上になります。
 - ②生育適温20℃と同等の生育をするのは、32℃までです。
- 2 遮光資材の効率的な利用法を明らかにしました。
 - ①遮光率40%の遮光資材を利用すると、一株重が重く、可販収量も多い傾向にあります（図1）。
 - ②遮光資材は、収穫10日前に除去すると一株重が重くなります（表1）。

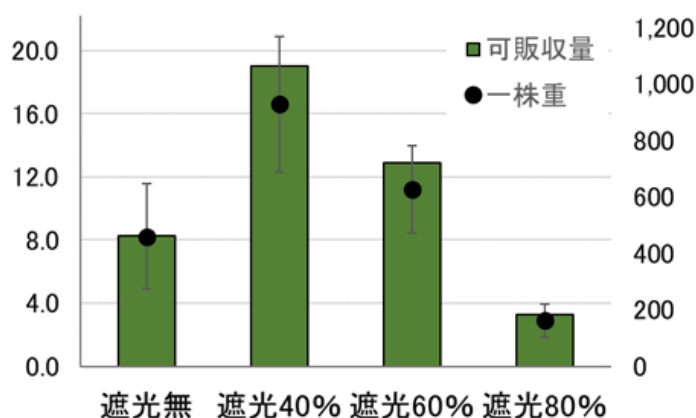


図1 遮光資材の遮光率と一株重、可販収量の関係
注) エラーバーは標準偏差を示す

表1 遮光資材除去時期と一株重の関係

	一株重 (g)
除去無	16.6±4.3
収穫5日前除去	14.8±3.6
収穫10日前除去	19.4±5.8
収穫15日前除去	17.9±6.0

注1) 平均値±標準偏差

注2) 遮光資材の遮光率は40%

遮光なしと遮光資材【遮光率40%「ふあふあ™SL40」（ダイヤテックス（株））】を使用したときの収穫物の違い

7月30日播種、9月3日収穫、収穫10日前の8月24日に遮光資材を除去



遮光なし

遮光あり

留意点

- (1) 天井ビニルを複数年使用している場合は、フィルムの汚れ等により遮光率が高くなりやすいことに注意してください。
- (2) 遮光をすることで必要なかん水量が変化することがあります。

☆新しい仲間たち(研究職編)☆



私たちは、令和7年（2025年）4月から当センターで研究職として勤務しています。栽培・飼育をはじめ、研究手法等を先輩方に教わりながら、生産性向上技術の開発、環境にやさしい農業を推進する技術の開発などの研究に取り組んでいます。

全国果樹女性生産者熊本大会 果樹研究所視察の様子

7月中旬、全国果樹女性生産者熊本県大会が開催され、現地視察が果樹研究所で行われました。全国各地から果樹栽培に携わる多くの女性に参加されました。当日は曇り予報でしたが、きれいな晴れ空となり、暑い中でしたが、全国の皆様に研究成果、研究内容を見ていただくことができました。



常緑果樹研究室、落葉果樹研究室、病虫化学研究室それぞれが、研究成果を紹介しました。

視察に来ていただいた方から、それぞれの産地の課題と照らし合わせ、たくさんの質問をいただきました。各産地の課題、熊本県の課題、取り組める新しい技術の話など、有意義な意見交換ができました。



紹介した研究成果や農薬散布用ドローンの実演の様子はX（旧 Twitter）に投稿していますので、ぜひご覧ください。



KUMAMOTO Pref.
農業研究センター

本紙に関するお問い合わせは、企画調整部
企画情報課までご連絡ください。

〒861-1113 合志市栄3801

tel 096-248-6422 fax 096-248-7039

E-mail noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)